

特集：軽井沢の宣教師別荘 ②

ブルックサイド・コテージの歴史

はじめに

ここで取り上げる軽井沢にあった宣教師の別荘は、夏休みに家に帰れない寄宿生を預かったという、かのミス・ブラックモアの別荘である。『東洋英和女学院百年史』には、彼女はこの別荘を処分して1919年に託児授産事業の興望館開設費用にあてた、と書かれている。

写真でみると、和風の畳敷き二階建てで、開放的な造りであり、最初から大人数の生徒が共に寝起きするのに困らないように設計されたように思われる。このコテージでひと夏を過ごした生徒たちは、その楽しい合宿生活を満喫したようである。ブルック(小川)のすぐそばにあって、洗濯はその小川の冷たい水を使った。食事当番や掃除当番が交代で課せられ、自由時間にはテニスをしたり町に買い物にも出かけた。日曜日には揃ってユニオンチャーチに出席、時々ハイキング、火曜日の夜にはユニオンチャーチで開かれる音楽会に出かけた。その様子は生き生きした文章で『東洋英和女学校五十年史』に2編寄稿されている。

一昨年、学院短期大学時代から33年間、学院で教鞭をとられたミス・ジュティーンが、自分は戦後、「ブルックサイド・コテージに夏になると行っていた」と回想されていることをうかがい、『百年史』との齟齬が気になっていた。

では、このブルックサイド・コテージはいつ建てられ、いつ壊されたのか。

昨年、登記簿謄本を調べてみると、知られざる歴史が浮かび上がってきた(別表を参照のこと)。

ブルーダム所有の時代

まず、この土地(現万平ホテルの近く)を最初に手に入れたのは、カナダメソジスト教会宣教師W.ブルーダムであった(1904年)。外国人なので、当時の慣習どおり、999年の期限付きの購入だった。彼は主に長野、富山の伝道にあたった。1907年に帰国したので、その間に別荘を建てたかどうかは不明である。

ブラックモア所有の時代

1909年にミス・ブラックモアがこの土地を購入し、ブルックサイド・コテージを建てた。生徒を預かるのに、数人の若い日本人の教師(水野菊や小沢房など)の手を借りた。軽井沢での生徒と一緒に和やかな写真にはミス・クレイグやミス・コーテス、ミス・チャベルなどが写っているが、どなたが生徒たちと寝食を共にしていたかはわからない。というのは、ミス・クレ



ブルックサイド・コテージ

イグやミス・ハーグレイヴの別荘も近くにあったからである。生徒の中には、複雑な家庭事情を抱えた柳原燐子(白蓮)もいた。

1919年、社会事業にも熱心に取り組んでいたミス・ブラックモアは日本キリスト教婦人矯風会外人部の一員として、軽井沢の土地の半分(おそらく崖の下側)を売却、3,000円を本所に設立したセツルメント、興望館の建設費用として寄付した。売却された土地には、その後アメリカ人のメジャー氏がヴォーリズに依頼して別荘を建てた。(この通称「旧メジャー山荘」は2011年に取り壊された。)

このとき残された半分(おそらく崖の上側)にコテージは建っていて、その後もずっと存在していた。

ケギー所有の時代

1925年をもってミス・ブラックモアは帰国する。おそらくその際に、ブルックサイド・コテージはミス・ケギーの手に渡った。

ミス・ケギーは1908年来日、家政学が専門で東洋英和、山梨英和で教えた。1914年、女子の職業訓練学校カートメル女塾(甲府)の設立に尽力し、1918年第一次世界大戦終結時には、赤十字に参加してシベリアに行った方である。

1927年から1933年の間、彼女は健康上の理由でカナダに帰国していた。1933年に復職して浜松に赴任する。こうした事情を考え合わせると、別荘がケギー所有になってから生徒の合宿は行われなかったのではないだろうか。1940年帰国、1941年病気のため引退する。

敵産管理の時代

1941年太平洋戦争が開戦した。

戦争中、敵国人となったミス・ケギーの土地

ブルックサイド・コテージ 土地所有者の変遷

1904 (明37) 年	プルーダム取得 (売買)	1907年 プルーダム離日
1909 (明42) 年	ブラックモア取得 (売買)	ブルックサイド・コテージを建て、夏休み中 生徒を預かる
1919 (大 8) 年	土地を分割し、半分を売却 (のちメジャー山荘が建つ) 売却金は社会福祉施設「興望館」建設資金とする	
1925 (大14) 年	ブラックモア離日	ケギー 取得 (売買)
1940 (昭15) 年	ケギー離日	
1942 (昭17) 年	敵産として強制管理下におかれる	太平洋戦争 (1941—1945) 年
1943 (昭18) 年	日本人が取得 (売買)	
1949 (昭24) 年	ケギーに返還 在日本カナダ合同教会宣教師社団に贈与 しばらく、宣教師たちが盛んに利用	
1964 (昭39) 年	在日本インターボード宣教師社団に寄付	
1967 (昭42) 年	タンブリッジ、ホーニングに贈与 ブルックサイド・コテージを壊し、 建て直す	
1986 (昭61) 年	タンブリッジ帰国 日本人に売却	

ブルックサイド・コテージ 存続



ミス・ブラックモア



ミス・ケギー



ミス・タンブリッジ



ミス・ホーニング

は日本政府が敵国人の財産として強制管理、競売処分された。贍本によるとまず不動産会社が入手し、それから個人名が見られる。買った人は疎開先として購入したのであろう。しかし、終戦により強制管理は解かれ、土地建物は元の所有者の元に戻るようになった。

戦後～1960年代

1949年この土地はいったんミス・ケギーに返還された。しかしそれは書類上のことである。実際には彼女は日本に戻らず、この土地は「在日本カナダ合同教会宣教師社団」に贈与された。この時期は、大勢の宣教師たちがよくこのコテージを利用したそうである。4つのベッドルームのある大きな別荘だった、とジュティーン先生は回顧しておられる。

1964年に「在日本インターボード宣教師社団」(北米の主要な教会から成る社団)に所有者が替わる。

タンブリッジ、ホーニング所有の時代

1967年には、このコテージをよく利用していたミス・タンブリッジとミス・ホーニングが、社団に何らかの寄付をして贈与を受ける。さす

がに、よく利用された築60年の木造別荘はあまり資産価値がないくらいに傷んできていたのではなかろうか。二人はコテージを取り壊し、建て直した。ここにブルックサイド・コテージの歴史は終わりを告げたのである。

このお二人はやはりカナダ合同教会の宣教師で、ミス・タンブリッジは、1950年から1986年まで長野県の上田で伝道なさっていた。ミス・ホーニングは本学短期大学で教え、後に高等部のカナダ学習旅行に協力して下さった方である。

1986年、ミス・タンブリッジの帰国の際にこの土地は分割されて売却されたという。

昨夏この場所を訪ねてみたところ、モダンな新しい別荘が建ち、5年前旧メジャー別荘がまだ建っていたころと比べると、風景は一変していた。往時をしのぶよすがは何もなく、軽井沢の変貌を目の当たりにした思いだった。

終わりに、ブルックサイド・コテージの歴史を調べるきっかけを下さったジュティーン先生と、長野地方法務局佐久支局の登記簿贍本の調査に通ってくださった大井真理子氏(高等部卒・元中高部教諭)に衷心より感謝したい。

酒井 ふみよ (史料室嘱託)